

現代文化学部

文化コミュニケーション学科(仮称)

2018年4月
開設予定

(届出書類提出中)



2018年4月、文化言語学部文化言語学科から、 現代文化学部文化コミュニケーション学科へ。

文化言語学部文化言語学科は、さらなる情報化とグローバル化がすすむ社会において、地域で必要とされる人材を育成するため、現代文化学部文化コミュニケーション学科へと生まれ変わります。

記載の内容は予定であり、今後変更になる場合があります

文化コミュニケーション学科の学びのポイント

学びのポイント

高度な日本語運用力及び多様な文化と社会に関する知識を身に付けた上で、高度情報化とグローバル化が進む日本社会に貢献できる人材を育成します。

希望する進路・学びに応じて、「情報メディア文化」、「観光文化」、「日本・東アジア社会文化」、「文芸文化」の4つの領域を組み合わせ、「文化」に関する専門的な能力を育成します。

1年次の専門導入科目や教養科目での学びを経て、2年次に自分自身が学びたい学修領域を、「情報メディア文化」「観光文化」「日本・東アジア社会文化」「文芸文化」の中から、主専攻の領域と副専攻の領域を1つずつ選択します。情報メディア文化領域では、現代日本のサブカルチャーに加えてインターネットカルチャーを学びます。観光文化領域では、「コンテンツ・ツーリズム」や「フード・ツーリズム」といった新しい観光行動を分析します。日本・東アジア社会文化領域では、日本の社会・文化及び東アジア諸国の社会・文化を学びます。最後に、文芸文化領域では、古代から近現代に至る日本と中国の文学を学びます。

チームワークを活かして他者と協働的に問題を解決する能力を育成します。

「社会調査法」や「地域マネジメント研修」といった社会に参加しながら学ぶ科目を通じて、他者とコミュニケーションを取りながら問題を解決するスキルを育成します。

すべての学びの基礎となる日本語運用力と実践的な外国語運用力を育成します。

日本語の「読む・書く・話す・聴く」という技能高度なレベルにまで高め、充実した留学制度のもと、実践的な英語・韓国語・中国語の運用能力を育成します。

取得可能な資格	目標とする資格
<ul style="list-style-type: none"> ● 司書 ● 社会調査士 ● プレゼンテーション実務士 ● 観光ビジネス実務士 ● 日本語教師(大学認定) 	<ul style="list-style-type: none"> ● TOEIC・600点以上 ● 中国検定2級以上 ● ハングル能力検定2級以上 ● 簿記検定 ● 通訳案内士
	<ul style="list-style-type: none"> ● 日商PC検定試験 (文書作成・データ活用) ● ITパスポート ● 日本語ワープロ検定試験 ● 情報処理技能検定試験
	<ul style="list-style-type: none"> ● 文書デザイン検定試験 ● ビジネス能力検定 ● 旅行業取扱管理者試験 ● サービス接客検定 など

想定する主な進路

(詳細はカリキュラムイメージP17~8を参照)

- ★観光ビジネス(エアライン、鉄道、旅行代理店、ホテル)など
- ★金融、地方自治体、貿易、流通、製造など
- ★出版、広告、情報サービス(Webメディアなど)、司書、日本語教師

専門領域の
学び

現代文化学部 文化コミュニケーション学科(仮称)

記載の内容は予定であり、今後変更になる場合があります

情報メディア文化

●マンガ表現論 I

「吹き出し」「コマ割り」といったマンガ特有の表現技法を持つ表現性を理解した上で、日本のマンガ表現の文化的特性を考察します。あわせて、アニメーションとマンガのメディアとしての関係性についても考察します。



●ソーシャルメディア論

ソーシャルメディアとは、Twitter、LINE、instagramといった不特定ユーザーが緩やかに繋がるWebメディアのことです。この授業では、ソーシャルメディアが現代社会に与えるインパクトについて考えます。

観光文化

●コンテンツ・ツーリズム論

コンテンツ・ツーリズムは、アニメーション作品に代表されるサブカルチャー作品の舞台を実際に巡るという観光行動です。本授業では、熊本県内の身近な具体例を挙げながら、コンテンツ・ツーリズムの現状と課題および今後の展望を学びます。



●フード・ツーリズム

旅行者にとって旅行先での食(郷土料理)はその土地の文化を知り、歴史を知る貴重な体験です。この授業では、観光客を引き寄せる重要な要素である食と観光の関係性を考えます。

日本・東アジア社会文化

●日本伝統文化論

能・狂言・歌舞伎などの舞台芸術、そして、歌道・仏道・茶道・華道・香道・武道・書道など、目指すところは同じ「道」を究める日本文化の特質について考察します。また、伝統文化の核となる中世の思想(無常観・あわれ・わび・さび等)の精神的美意識についても分析します。



●東アジア社会文化論

東南アジアの社会、文化の特徴を理解することを目的とし、東南アジアが抱える諸問題を考察します。東南アジア地域の国家群が形成された歴史的背景を把握した後、各国の経済・社会・文化の特質、東南アジアの現状と課題について、日本など東アジア諸国との関係を分析します。

文芸文化

●文芸文化論講義 I

日本近現代文学の作品を通して日本人が近代以降抱えてきた問題についての造詣を深めると同時に人間の深層心理について学びます。文学における虚構とは何かを意識しながら、イデオロギー、ジェンダー、セクシュアリティといった多角的な視点から文学を「読む」ことを目指します。



●声の文化論 I

明治時代以降、語り継がれ、読み継がれてきた日本文学の中でも、「声」が重要な役割を果たしている「詩」、「短歌」、「唱歌」、「児童文学」といった領域における作品を分析し、これらの分野がどのように成立してきたかを考察します。



教えて先生

Q&A [よくある質問]

新しい学科のこと、
もっと知りたいから先生に聞いてみました!

Q サービスラーニングの具体例を教えてください。

企業の協力のもと、震災によって仮設住宅に住むことを余儀なくされた方々に「化粧療法」を実施したり、台湾での熊本物産品のマーケティングなどを行っています。

Q 4つの領域の組み合わせはどの段階で行うのですか?

1年次の「基礎セミナー」や専門導入科目で概略を学んだ後、専門課程に進む2年生後期(10月から)4領域のうち、どの領域をメインにして、どの領域をサブにするかを決定します。

Q 新しい学科ですが先輩たちとの交流はできますか?

文化言語学部の先輩が同じキャンパス・教室で学んでいるので、サークル活動や文化祭などのイベントで交流できます。

先輩たちの声

在学生から
ひとこと

文芸文化について深く学びながら、
司書資格も取得できます

石川 温子 さん | 文化言語学科4年(熊本県 鹿本高等学校出身)

様々な文芸文化や、熊本の文化について学ぶ「熊本学」など、興味に合わせて幅広く学んでいます。また、課題やレポートを書いたり、履修計画のスケジュールリングで頭を悩ませたりする経験は、社会に出たとき役に立つ力を身につけていると感じます。司書資格取得やインターンシップに積極的に参加するなど、いろんな学びの中で自分の興味が増え、毎日が充実しています。



在学生から
ひとこと

プロジェクトワークを通じ、
社会と関われるのが魅力

吉本 絢香 さん | 文化言語学科3年(熊本県 九州学院高等学校出身)

自治体や企業のプロジェクトチームに参加するなど、社会と関わる実践的なカリキュラムが組まれているので、とても勉強になります。また韓国に交換留学をしたことで、国際的な視点が身につきました。実は高校卒業後に就職しようと考えていましたが、大学で自分の知らなかった世界をたくさん見たり学んだりしたことで、自分の将来に夢が持てるようになりました。



現代文化学部 文化コミュニケーション学科(仮称)

カリキュラム
イメージ

記載の内容は予定であり、今後変更になる場合があります

メインの選択領域に、もう一つの領域を組み合わせて学び、目標とする進路に進んでいきます。

例えば
観光ビジネスをめざすなら
「観光文化」を選択し、
他領域で興味のある科目を選択。

観光文化

情報メディア文化

日本・東アジア社会文化

文芸文化

■教養教育科目

大学における学修の導入としての「基礎セミナー」、コミュニケーション力を高める「日本語表現」・「外国語科目」、文化や社会理解を深める「日本伝統文化」・「女性と社会」などの科目を通して、幅広い教養を身につけます。

- 基礎セミナー
- 日本語表現 I・II
- クリティカル・リーディング
- クリティカル・シンキング
- 日本伝統文化 I・II
- 読書と豊かな人間性
- 女性と社会
- 簿記・会計 I・II
- 日本文学史 I・II
- 東アジア近現代史
- 課題探求プロジェクト入門 他

■専門導入科目・共通実践科目・実践外国語科目

4つの専門分野の概要を学び、自分自身が専門課程で学びたい領域への橋渡しをする「専門導入科目」、地方自治体や企業とのコラボレーションから専門的な知識を実社会に活かす「共通実践科目」、実践的に「使える」外国語を学ぶ「実践外国語科目」が用意されています。

- | 専門導入科目 | 共通実践科目 | 実践外国語科目 |
|------------------|-----------------|---------------------------|
| ●社会コミュニケーション論入門 | ●社会コミュニケーション実践論 | ●検定中国語 I・II・III |
| ●言語表現文化論入門 | ●マーケティング論 | ●検定韓国語 I・II |
| ●情報メディア表現文化論入門 他 | ●プレゼンテーション概論 他 | ●TOEIC Preparation I・II 他 |

1~4年次

1~4年次

2年次
3年次
4年次

2年次
3年次
4年次



想定する
進路

- ◎コンテンツ産業
- ◎Webメディア
- ◎情報サービス

- ◎インバウンド系観光ビジネス
- ◎地方自治体
- ◎貿易

- ◎国内観光ビジネス
- ◎情報サービス
- ◎Webメディア

- ◎貿易
- ◎観光ビジネス
- ◎地方自治体
- ◎日本語教師
- ◎金融

- ◎金融
- ◎貿易
- ◎地方自治体
- ◎情報サービス
- ◎製造

- ◎広告・出版
- ◎司書
- ◎日本語教師

想定する
進路

現代社会のニーズに応え得る女性を育成する学科です。
いっしょに「仕事力」を高めましょう!

中川 明夫 教授 | 専門分野 ◎韓国語教育、日韓言語比較、日本語教育



地域社会の未来に必要とされる人財が、ここから飛び立ちます

九州エリアを中心とした企業・団体で人事関連業務に携わっている人を対象にアンケート調査を実施した結果、「現代文化学部コミュニケーション学科」の社会的必要性について、多くの企業・団体から「必要だと思う」と高い期待が寄せられました。また、84.7%の企業・団体が現代文化学部文化コミュニケーション学科の卒業生を「採用したいと思う」(有効回答118企業・団体中、100企業・団体)と回答いただき、予定している入学定員(75名)を上回る採用意向がみられています。

